

皆様こんにちは。今回は8月13日に出場した「第37回 We are Sneaker Ages」のレポートです。

Sneaker Ages とは関西の高校・中学校の軽音楽系クラブコンテストで毎年多数の学校が参加する夏の一大イベントです。(最近は関東でも開催されるようになりました)

今年は113校がエントリーしました。それを9日間の予選に分け、それぞれの日程の1・2位が12月に行われる決勝大会に進めます。そしてそれぞれの日程の3・4位が決勝大会行きをかけた10日目に準決勝を行い、そこで1・2位になれば決勝大会の切符を手に入れることができます。

我が英真学園は予選会第2日目に出場し、13校の中から入賞を目指しました。
名だたる強豪校から初出場校まで、たくさんのライバルが並びます。



こんな大舞台での演奏にあまり慣れていないため、控え室ではソワソワして落ち着きがありません(笑)



それでも刻一刻と出演時間は近づきます。円陣を組み士気を高め、いざ本番へ！



控え室と舞台袖ではグワグワミミガカガクブルブルしていたメンバーですが、舞台に出るとスイッチが入ります。先ほどとは別人のような表情で、精一杯の演奏とパフォーマンスを見せてくれました！



応援隊も千切れんばかりに手を振って盛り上げます！

演奏後のインタビューにも堂々と答えました。関わってくださった全ての皆様へ感謝を込めます。



全てを出し切り、後は結果発表を待つばかり…

そして毎回恒例の西浦達雄さんの激励ライブのあと、運命の結果発表。

他校の演奏・パフォーマンスも素晴らしいものばかりだったので、顧問もドキドキハラハラ…

結果は…

堂々の3位入賞！ そして21日の準決勝に望みを繋ぎました！

しかも2位の高校とは3点差（採点は200満点）、あと4点で決勝行きが決まったかと思うと、メンバーにも「もっとあそこがんばれたな…」と悔しい気持ちが滲みます。

去年の大会のあとのミーティングで私は生徒たちに、「なんとなくエントリーして、なんとなく終わるだけやから、結果発表の時にウチが選ばれるなんて、英真のメンバー自体が誰一人として思ってない。やから入賞を逃したからって泣くこともないし、何の感慨もない。でも、今日あの場所で精一杯やって涙を流した子らも君らと同じ高校生。バケモノやない。しかも楽器を始めたんはほとんどが高校生からやねんから、スタートラインは同じ。君らだってやったらできる力は持ってる。恵まれたことにめっちゃ練習できる場所も時間もある。どうせ出演するなら涙流せるぐらい本気でやらんともったいない。やれる環境はある。ないのはやろうとする気持ちや」と、かなり熱血教師じみたことを言いました(笑)

今回出演したメンバーはこの時の思いを胸に、この1年間基礎から見直し、練習に励んだそうです。そして、1・2位入賞を逃した時に泣き、3位入賞が決まった時にも泣きました。その思いが実を結び、入賞という形として表れてくれたのは顧問として嬉しいかぎりです。また、自分が出演するわけでもないのに、応援の子たちもよくがんばってくれました。本当に皆で力を合わせた結果だと思っています。おめでとう！そしてありがとう！



しかしここで浮かれている暇はありません。21日の準決勝を勝ち抜くためにも、部員・顧問ともにお盆休みを返上して毎日練習することを決めたのです。

どこまでいけるかは分かりませんが、全力でがんばりますので、皆様また応援よろしくお願い致します！

